

森吉山麓高原自然再生全体構想 (平成18年3月作成) 概要

目標

牧場造成工事により失われる以前のブナ林の広がる自然環境を取り戻す。

- 短期的な目標 (30年間) : 森林の連続性に配慮しつつ、無立木地を出来るだけ少なくするための植栽等による森林の造成
- 中期的な目標 (50年後) : 植栽木による二次林的な様相が見られるようになるため、出来る限り自然の営みに遷移を委ねる
- 長期的な目標 (100年後) : 自然に近いブナ林を再現

課題

- ブナを主体とした森林整備による「緑の回廊」など周辺の森林と連続性を持たせた生物多様性に富む自然環境の再生
- ブナ林再生の手法、土壌改良等基盤づくりの手法の確立

森吉山麓高原自然再生協議会

平成17年 7月に組織化
 令和 3年12月時点で構成員数16
 個人(専門家を含む)6、団体3、
 関係地方公共団体4、関係行政機関3

対象区域

北秋田市森吉山麓高原1-1 487.7ha

取組

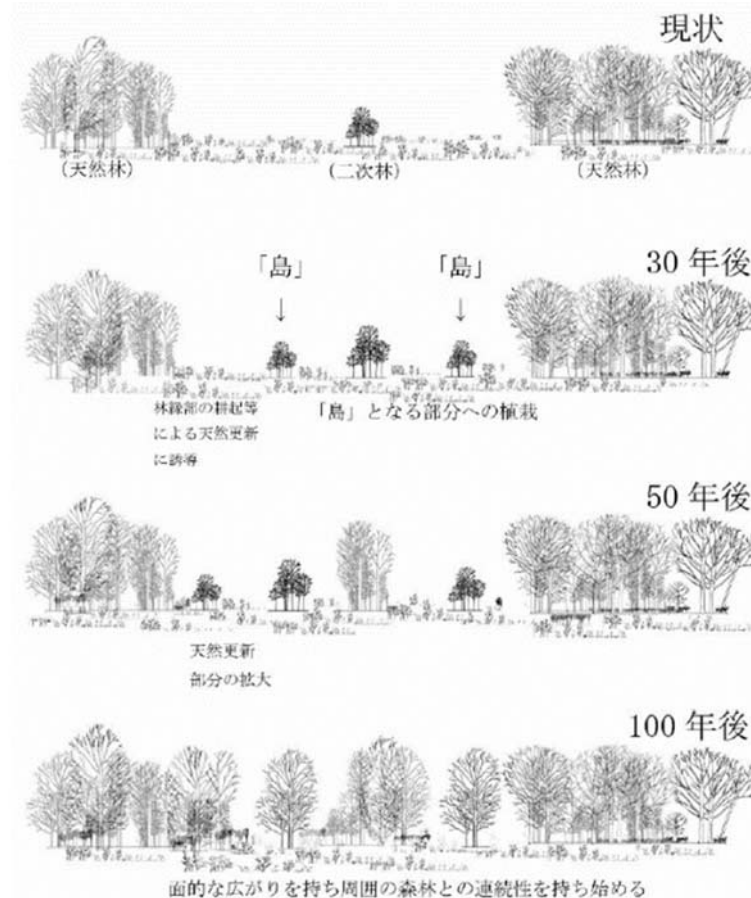
- 遺伝子の多様性に配慮した種子や苗の採取
- 周辺の森林植生及び土壌条件等を考慮した植栽樹種の選定
- 天然下種更新を期待した母樹の周辺の耕起、刈り払い
- 必要に応じた二次林の間伐等の保育
- クマゲラの生息地や人々の利用等に配慮した植栽箇所の検討
- 自然観察・自然環境学習を取り込んだ事業実施

森吉山麓高原における自然再生の原則

- クマゲラの棲める森づくりに当たっては、隣接する国指定森吉山鳥獣保護区と森林の連続性の確保が期待されるゾーンを優先して整備する。
- 広大な人工草地の森づくりに当たっては、森林の連続性が期待されるゾーンの中に「島」を配置し、ブナ等を植栽する。
- 森づくりは人工草地で行うため、天然更新、人工更新とも土壌改良など、森づくりの基盤づくりをしっかりと行う。
- 植栽等森づくりに当たっては、地形・土壌条件、植生等から画一的手法ではなく、参画する人々がアイデアを出し、工夫しながらいろいろな手法を検討できるよう実施する。
- 植栽等の経過については必ずモニタリングを行い、その的確な評価に基づき、森づくり事業方針を改善するなどのプロセスを重視し着実に推進する。



営巣中のクマゲラ



植栽後の森林イメージ